

# 浦臼にチャシ(砦)を構えた

## 西蝦夷地の総大将ハウカセ

東京浦臼会 事務局長 後藤史朗

戦国時代が終わり、太平の世を謳歌しつつあった日本列島に突如として起こった大事件が「シャクシャインの蜂起」である。この大事件で陰の主役をつとめた西蝦夷地の総大将ハウカセは、浦臼のチャシで各地のアイヌから報告を受け取り、指令を出していた。

松前藩が成立したとき、アイヌとの交易権を知行として家臣に分与したのである。その後、物資の交換比率がどんどんアイヌ側に不利になり、生活を圧迫していった。1669年2月に日本海側アイヌの総大将ハウカセ

は、松前からの交易船を襲い強引に以前の交換比率で物資を交換する「押し買い」を行った。これに対して松前藩が「交易を停止する」と脅したところ、ハウカセは「もともとアイヌには酒、米は不要である。……商船が来たら1人も婦さぬ」と宣言し、石狩川河口に1000人ほどを配置して武装封鎖してしまった。この緊張状態の中で4ヶ月後に「シャクシャインの蜂起」が起る。この蜂起に松前藩は驚愕狼狽して、幕府と近隣諸藩に援軍を求める。一方、シャ



# 大地の恵みに育まれた「余市町」

東京余市会 理事 堀野潤

ニッカウヰスキーの創業者、竹鶴政孝氏は「工場予定地は、前から目をつけていた北海道余市にためらうことなく決めた。(中略)」

ニシンの漁場としても有名であったが、リンゴやブドウの産地でもあり、北海道でも珍しく恵まれた土地であった」と「ウイスキーと私」で余市をウイスキーづくり出発の地として選んだことを紹介している。

ニシンは「幻の魚」となり、今はエビ、イカ、カレイ漁が代わって盛んに行われている。

平成23年に「北のフルーツ王国よいちワイン特区」として認定を受け、リンゴ、ナシに加え、ワイン用ブドウの収穫量も全道一を誇るワインの町として現在注目を集め、一



ニッカウヰスキー余市工場

余市は、「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」の中にあり夏場は海水浴場も開かれる。余市から積丹までの変化に富んだ「海の景観」とウニ、イクラ、アワビなどの新鮮な「海の幸」は多くの観光客を魅了して止まない。

小樽、余市の高速道路は平成30年度には開通し、余市は道央からますます近く、便利になります。イチゴ、サクランボ、ブドウなどの果物、ウイスキーやワインは北の大地が育んだ恵みそのものです。昔も今も「夢への出発の地」として選ばれた「余市町」を訪ね、「大地の恵み」を満喫して頂ければ嬉しい限りです。



クシャインはハウカセの元にたびたび使者を送って蜂起への参加を求めるが、ハウカセは武装中立の立場を崩さなかった。ハウカセが蜂起に加わっていないことが明らかになると、松前藩は急に落ち着きを取り戻し、アイヌ側の蜂起は水が引くように縮小していく。総勢300人ほどのシャクシャイン軍が内浦湾の国縫で松前藩と交戦した頃、ハウカセは津軽藩の隠密船にビクニ、余市、小樽の大将を接触させ、津軽藩との交易再開を画策していたのである。

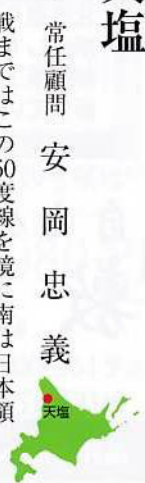
蜂起の終結後に松前藩は各地のアイヌに「服従を誓う起請文」を提出させたが、ハウカセは拒否した。石狩川筋に松前の商船が入ることができるようになったのは1700年代に入ってからである。ハウカセが一貫して「徳川家康が松前藩に与えた黒印状」の遵守を求めていたために、松前藩は手出しできなかったのである。

# 北緯44度のふるさと天塩

東京天塩会 常任顧問 安岡忠義

この広い地球上の何処に故郷天塩町が位置しているのだろうか、今迄殆ど無関心で過ごしてきたが最近では赤道直下や緯度経度を問わず外国人観光客が夏冬の関係なく日本へ押し寄せてきている。

私の生れ故郷は世界のどの辺りなのか天塩町の役場に問い合わせると早速教えて頂きました。それによると天塩町は北緯44度45分47秒から44度59分37秒と東経142度01分41秒から142度42分51秒迄と教えて頂きました。この囲まれた面積は聞き損じ、以前に調べたことがあるんだが忘れてしまった。赤道から北へは10度20度30度40度50度と北極点迄行くその中で40度線は秋田県男鹿半島の入道崎の近くを通っている。次の50度は今のサハリンの中央部を通っている。併《しか》し終



戦まではこの50度線を境に南は日本領北はロシア領だった。この国境を日本の軍隊が守備に就いていました。天塩町はあの男鹿半島の入道崎の40度からサハリンの50度の中間より稍《やや》南に位置し前面の日本海を対馬海流が北上している。そのお蔭でオホーツク海のように冬は凍結することはない。又冬は日本海を渡ってくる大陸からのシベリヤ風《おろし》は肌身を刺す冷たさより痛い感じだった。天塩では昔からそんな日本海で早春からニシンをはじめ1年を通じて海の幸が豊富に捕れて浜は大漁景気に湧《わ》き今だに沖合からヤン衆の掛声が聞こえてきそう。現在はこの北緯44度の湖北《さくほく》の地は一大酪農地帯となり一瞬外国の農村へ足を踏み入れた感じがする。

**HOKKAIDO FOODIST 北海道フーディスト**  
 〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目1 八重洲地下街  
 TEL/03-3275-0770  
 営業時間/10:00~20:00  
 定休日/年中無休 (1月1日のみ店休)

八重洲地下街MAP  
 日本橋方面  
 八重洲中央口 東京駅  
 八重洲南口  
 カフェドクリエ  
 外堀地下3番通り  
 案内所  
 メインエントリ  
 神戶屋  
 八重洲南口  
 八重洲中央口 東京駅